

令和四年度

神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査問題

共通選抜 定時制の課程

Ⅱ 国 語

注 意 事 項

- 1 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は 問四 までであり、1 ページから13 ページに印刷されています。
- 3 解答用紙の決められた欄に解答しなさい。
- 4 マークシート方式により解答する場合は、選んだ番号の ○ の中を塗りつぶしなさい。
- 5 終了の合図があつたら、すぐに解答をやめなさい。

受 検 番 号

番

問一 次の問いに答えなさい。

(ア) 次の a ～ d の各文中の——線をつけた漢字の読み方として最も適するものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|----------------------|----------|---|------|---|------|---|------|
| a | 資料を <u>閲</u> 覧する。 | (1) かんけん | 2 | えつらん | 3 | えつけん | 4 | かいらん |
| b | 入學式で祝 <u>辭</u> を述べる。 | (1) しきじ | 2 | のりじ | 3 | しゅくじ | 4 | けいじ |
| c | 老舗の和菓子屋で働 <u>く</u> 。 | (1) しにせ | 2 | めいてん | 3 | しみせ | 4 | ろうてん |
| d | 判断を友人に委 <u>ね</u> る。 | (1) つら | 2 | ゆだ | 3 | たず | 4 | たば |

(イ) 次の a ～ d の各文中の——線をつけたカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | |
|---|---------------|---|----------------|---|-----------------|
| a | 試合で仲間をオウエンする。 | 1 | オウイを繼承する。 | 2 | オウベイ諸国と貿易する。 |
| b | 火山のヨウガンが流れ出す。 | 3 | ランオウを使って菓子を作る。 | 4 | 時代の流れにタイオウする。 |
| c | 茶をフンマツにして飲む。 | 1 | 海藻にはジヨウがある。 | 2 | ヨウモウでできた手袋を買う。 |
| | | 3 | 食塩のヨウエキを作る。 | 4 | 声にヨクヨウをつけて音読する。 |

- | | | | | | |
|-----|---|---|---------------------------|---|----------------|
| d | 読みたい本を図書館でサガす。 | 1 | 機械でフンサイして処分する。 | 2 | あまりの結果にフンガイする。 |
| | | 3 | コフンを散策する。 | 4 | 彼は試合でフントウした。 |
| (ウ) | 次の各文のうち、敬語の使い方が適切でないものを一つ選び、その番号を答えなさい。 | 1 | 見え透いたコンタンだ。 | 2 | 天氣がキョクタンに変わる。 |
| | | 3 | セキタンを掘り出す。 | 4 | 姉からタンテイ小説を借りた。 |
| | | 1 | お客様の <u>お</u> っしゃるとおりです。 | | |
| | | 2 | 明日の会議について <u>お</u> 尋ねします。 | | |
| | | 3 | 先生にお礼を <u>申</u> し上げます。 | | |
| | | 4 | 担当者にかが <u>つ</u> てください。 | | |

(エ) 次の文章中の□に入れることわざとして最も適するものを、あとの 1 ～ 4 の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

クラスで文化祭に向けて準備をしていたが、やるべきことがたくさんあるとわかっておらず、教室の装飾ばかりに力を入れてしまっていた。まさに□だ。

- | | | | |
|---|----------|---|------------|
| 1 | 木を見て森を見ず | 2 | 枯れ木も山のにぎわい |
| 3 | 木に竹をつぐ | 4 | 木で鼻をくくる |

(オ) 次の例文中の——線をつけた「で」と同じ意味で用いられている「で」を含む文を、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

例文 図書館で友だちに会った。

- 1 徒歩で駅まで向かう。
 - 2 部屋があまりきれいではない。
 - 3 運動会を校庭で行う。
 - 4 本を読んでから散歩に出た。
- (カ) 次の短歌を説明したものとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

横山 未来子

- 1 青葉が重なり合っている様子を「ゆたかなる」という語を用いて表現することで、さまざまな経験を積み重ねて成長していくことへの喜びを情感豊かに描いている。
- 2 青葉が初夏の風に揺れている様子を「弾力もちて」という語を用いて表現することで、若いからこそもっているしなやかな力強さを印象的に描いている。
- 3 青葉が風に吹かれて一斉に揺れる様子を「一塊の青葉」と表現することで、調和を重視するあまり同じ方向に流されてしまうことの危険性を批判的に描いている。
- 4 青葉が風の流れに逆らっている様子を「押しかへしたり」と表現することで、若さゆえに反抗的な態度をとってしまうことへの戒めを鮮明に描いている。

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

船橋市消防音楽隊に、市民隊員として参加している高校生の「私」は、消防隊員の「森隊長」「塚本さん」「荒木さん」「国吉さん」「早瀬」たちと練習を積み重ねてきたが、人数不足のため音楽隊が廃止になるという話を持ち上がった。音楽隊をつぶしたくない「森隊長」によって会議が開かれたが、そもそも音楽隊を存続させるべきかどうかを話し合う必要があるとの意見が出たことによって、会議は進まなくなってしまう。すると、トランペット担当の消防隊員「杉田さん」が、声を上げた。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(水生^{みずき} 櫻^{けやき}「君と奏^{かな}でるポコアポコ」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) 予防課^{よぼうか}ここでは、消防音楽隊を始めとした消防広報を担当している課のこと。

剽^{せう}軽^{けい}は気軽で面白いこと。

美丈夫^{みすづ}は美しい若者。

戯言^{ぎげん}は根柢のない、でたらめな話。

千尋^{ちひろ}は「私」と同学年の市民隊員。

(ア) —線1「今、この場にはいない国吉さんのことを、私も想起した。」とあるが、そのときの「私」を説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 音楽隊の他にも消防広報の手段はあるという「荒木さん」の発言から、練習で疲れた様子を隠し切れなくなっている「国吉さん」を思い出し、音楽隊以外の方法を考えようと決意している。

2 音楽隊が好きでトロンボーンの演奏も楽しいという「塚本さん」の発言から、どんなに疲れていてもフルートの練習を欠かさない「国吉さん」を思い出し、音楽隊の練習への気力を高めている。

3 音楽隊がなくなっても消防広報はできるという「荒木さん」の発言から、消防職員の業務に音楽隊の活動が重なって苦しんでいる「国吉さん」を思い出し、勤務状況の改善を訴えようとしている。

4 音楽隊の活動で休みが削られ体力面で不安を感じているという「塚本さん」の発言から、疲れ切った様子で楽器を練習している「国吉さん」を思い出し、体調を崩さないか不安に思っている。

(イ) —線2「一様に黙りこくる存続派の市民隊員。」とあるが、そのときの「存続派の市民隊員」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 音楽隊を続けるのに必要な費用について説明する必要があるとわかつてはいるものの、市民隊員という立場では財政状況を詳しく知ることが不可能なため、廃止派に立ち向かえずにいる。

2 音楽隊の消防広報としての有用性を説明する必要があるとわかつてはいるものの、市民隊員という立場では広報の効果を具体的に提示することができないため、廃止派に反論できずにいる。

3 音楽隊の隊員数を増やす方法について説明する必要があるとわかつてはいるものの、隊長が自ら音楽隊の人数を軽視するような発言をしたため、廃止派に意見を言うのが難しくなっている。

4 音楽隊がたどってきた歴史を説明する必要があるとわかつてはいるものの、隊長でさえ知らない音楽隊の歴史を把握することはできないため、廃止派を説得することをあきらめかけている。

(ウ) —線3「仏頂面の少年が深く息を吸って立ち上がった。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「早瀬」が、自分の意見を言う機会がなかなか回ってこないことに耐えられなくなり、話を聞いてもらえないのなら会議に出席している意味はないと、隊員たちに不満を訴えようとしている。

2 「早瀬」が、所属年数が長い人の意見ばかり採用されることを不公平に感じ、若手である自分が先頭に立って音楽隊を続けたいと言うことよって、若い隊員たちの発言を促そうとしている。

3 「早瀬」が、廃止の方向で話がまとまりつつあることを感じながらも、せめて存続派としての思いを述べてから音楽隊を終わらせたいと思い、寂しさをこらえて気持ち伝えようとしている。

4 「早瀬」が、経験年数で勝る人たちに意見することをためらいながらも、このまま議論が進むと音楽隊がなくなってしまうと危機感を覚え、勇気をふり絞って廃止派を説得しようとしている。

- (エ) —線4「鮮やかな弁舌に思わず舌を巻く。」とあるが、そのときの「私」を説明した次の文中の
- | | | |
|---|---|----|
| I | ・ | II |
|---|---|----|
- に入れる語句の組み合わせとして最も適するものを、あとの1〜4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

具体的な数値を提示しながら市民まつりと防火キャンペーンを比べることで、音楽隊以上に

I	ができるものはないと説明したあと、さまざまな広報活動をするよりも、音楽隊に力を注いで活動する方が	II	になると論理的に説明する「早瀬」に感心している。
---	--	----	--------------------------

- 1 I 多くの人に火災予防を呼びかけること II 消防の仕事全体の負担を減らすこと
- 2 I 市民と触れ合う機会を作ること II 市民隊員の人数を削ること
- 3 I たくさんの人が音楽に親しむこと II 消防の出動件数を減らすこと
- 4 I 市民に消防広報の歴史を感じさせること II 休日出勤のための人件費を削ること
- (オ) —線5「道すがら、早瀬の肩を軽く叩いて。」とあるが、そのときの「杉田さん」を説明したものと最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 音楽隊全体が存続のために動き始めたことを喜びながらも、自分が中心になって解決しなかった問題を横取りした「早瀬」を戒めている。
- 2 進行役を務め上げたことを誇らしく思う一方で、廃止派が優勢となっている現状を変えることができなかった「早瀬」をからかっている。
- 3 無事に進行の役割を終えてほっとするとともに、音楽隊廃止に傾いていた会議の雰囲気存続の方向に導いた「早瀬」をねぎらっている。
- 4 隊員たちに活気が戻ってきたことを不思議に思いつつ、音楽隊が長い間抱えていた問題をいとも簡単に解決した「早瀬」をたたえている。

- (カ) —線6「ありがとう、だとさ。」とあるが、ここでの「早瀬」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。
- 1 廃止の方向に流れていた先輩たちを説得できたことへの喜びをかみしめながらも、次回の会議でも隊員たちの先頭に立って意見を言えるか不安に感じているように弱々しい声で読む。
- 2 自分の発言によって話し合いが音楽隊を存続させる方向へと変化したことを喜びながらも、感謝されるような特別なことはしていないと照れ隠しをするようにそっけない調子で読む。
- 3 歴史ある音楽隊の廃止を自分の力でくい止められたことに満足しながらも、優越感に浸る自分の気持ちが見透かされてしまったことに気づいて恥ずかしく思っているように早口で読む。
- 4 自分の演説によって音楽隊の存続が決まったことを誇らしく思いながらも、結果的に先輩たちよりも目立ってしまったことは悪かったと反省するように申し訳なさそうな口調で読む。

- (キ) この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。
- 1 音楽隊の廃止は仕方ないとあきらめている消防隊員たちを、市民隊員たちが力を合わせて説得していく様子を、登場人物の心の動きを丁寧に追うことで段階的に描いている。
- 2 音楽隊の活動と消防の仕事の間で心が揺れ動く音楽隊の隊員たちが、音楽が持つ力を信じてさまざまなお問題を解決していく様子を、多彩な比喻を用いて印象的に描いている。
- 3 異なる意見を持つ音楽隊の隊員たちが、議論することによって気持ちを一つにしていく様子を、会議前後の事情を含めて語る「私」の視点を通して臨場感豊かに描いている。
- 4 音楽隊に入ったばかりの市民隊員たちが、消防広報に関する多忙な業務を乗り越えて徐々に音楽隊への愛着を強めていく様子を、「早瀬」の視点を軸に生き生きと描いている。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(著作権上の都合により省略)

(著作権上の都合により省略)

(小林 こばやし 武彦 たけひこ「生物はなぜ死ぬのか」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) SF映画は科学の発想を基に作られた空想の物語映画。

脆弱性はもろく弱い性質のこと。

凌駕は他のものを超えてその上に出ること。

(ア) 本文中の **A**・**B** に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- | | | | | | | | |
|-----|------|---|-----|-----|-----|---|------|
| 1 A | あるいは | B | しかし | 2 A | つまり | B | もちろん |
| 3 A | さらに | B | 決して | 4 A | むしろ | B | もし |

(イ) 線1『シンギュラリティ(AIがヒトの能力を超えてしまう技術的な転換期)』が起こり、ヒトの仕事の半分近くはAIに取って代わられる」とあるが、そのことについて筆者はどのように述べているか。それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 ヒトの仕事が減ることで生きがいがなくなり、AIの精神的な支えが必要になるため、AIが何かの理由で使えなくなるとヒトも生きていけなくなるかもしれないという不安がある。
- 2 職業を選ぶ楽しみはなくなってしまいが、優れた知能を持つAIがヒトの代わりに仕事をしてくれるようになるため、働かず楽をして暮らすことができるという利点がある。

3 現在の仕事が続けられなくなることは問題だが、ヒトの力だけでは成し遂げられなかったことがAIを使ってできるようになり、将来的には職業が増えるという利点がある。

4 ヒトの仕事がなくなっていく、職業選択の幅が狭くなってしまいうことに加えて、AIとの関係作りがうまくできなければ生きていくのが難しくなるかもしれないという不安がある。

(ウ) 線2『決して『ヒトの手助け』以上にAIを頼ってはいけません。』とあるが、筆者がそのように述べる理由を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 ヒトは周囲と支え合って困難を乗り越えてきたが、相談相手としてAIを選択するようになると、周りと助け合おうとしなくなってしまいうから。

2 ヒトは考えることで存在を確立してきたが、思考したり判断したりすることをAIに任せてしまうと、自分で考えることをしなくなってしまいうから。

3 ヒトは過去の反省を基に問題を解決してきたが、AIを使って問題が解消できるようになると、過去を振り返ることをしなくなってしまいうから。

4 ヒトは失敗から学ぶことを楽しんできたが、正しい判断をするAIに頼って試行錯誤しなくなると、楽しく感じられることがなくなってしまいうから。

(エ) 線3「孫の世代にとっては、AIの危険性より信頼感のほうが大きくなるのは当然です。」とあるが、筆者がそのように述べる理由を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「孫の世代」は、コンピュータが発達していく過程を見ていない上、生まれたときから日常的にコンピュータの恩恵をうけて生活しているから。

2 「孫の世代」は、教育に時間をかけて次世代を育てるという経験をしたことがない上、幼い頃からコンピュータの助けを借りて学習しているから。

3 「孫の世代」は、コンピュータがヒトの能力を超えたことを知らない上、大人がコンピュータを使う姿を見て制御できると思い込んでいるから。

4 「孫の世代」は、まだ幼くAIが死なないことを問題視できない上、コンピュータがヒトより豊富に知識を持っていると実感する機会が多いから。

(オ) —線4「ヒトが人格を与えた『エイリアン』のようなもの」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 はじめはヒトに似せて作られたが、とどまることなく進化し続けるため、やがては見た目や機能がヒトとかけ離れたものへと変化してしまう存在。
- 2 ヒトと接するうちに意思を持つようになったが、実体がなく意思伝達ができないため、やがては意思を伝えられるヒトを妬むようになってしまう存在。
- 3 ヒトによって自ら考え発達するように作られたことで、際限なく進歩を続け、やがては作り手であるヒトでさえも理解が困難になってしまう存在。
- 4 高速で進歩するように作られたことで、発達する速度が徐々にヒトと合わなくなっていく、やがては共に生活することが不可能になってしまう存在。

(カ) —線5「A Iが、逆に人という存在を見つめ直すいい機会を与えてくれるかもしれません。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 A Iについて考えることが、人は終わりのある命を持っているからこそ、寿命の短い生き物をあわれんで共存しようとするのだと意識する契機になると予想されるということ。
- 2 A Iについて考えることで、人は自分より多くの知識を持ち合理的な答えを導き出すものに反発し、理解しようとしなくなってしまうのだと自覚する見込みがあるということ。
- 3 A Iについて考えることで、人は命に限りがあるからこそ他の人と考えや感情を共有でき、時間をかけて変化することで存在し続けられるのだと気づく可能性があるということ。
- 4 A Iについて考えることが、人は自分より進化するのが遅い生き物に優越感を抱く一方で、自分より速く進化するものを恐れているのだと悟るきっかけになり得るということ。

(キ) 本文について説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 A Iの発達によって生じる問題を「生みの親」世代の視点から考察し、A Iと生物の大きな違いにも着目しながら、A Iとどのように共存していくべきかについて論じている。
- 2 A Iを活用するにあたって想定される課題を読者に投げかけ、世代によってA Iとの関わり方が異なることに注目して、次世代と共生できる理想のA I像について論じている。
- 3 A Iに頼ることで起こる危険について指摘した上で、A Iが誕生してから現在に至るまでのできごとを振り返りつつ、A Iの欠点を補うために有効な手立てについて論じている。
- 4 A Iが便利な道具にとどまらない存在になっていくことを予想し、A Iとの関係作りが難しくなっていく中で、A Iの力を借りずに生き延びるための方法について論じている。

問四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(注) 芝三島町に菓子をあきなふ新右衛門といへるは、(欲が少なく正直で)少欲至直にして、日ごとに買ふ品の価を争ふことな

く、売る人の言ふままにまかせて求めれば、家内の者いぶかりて、「商人はいづれも同じことにて、そ

の価の高下を争ふならひなるに、いかなればかく言ふままにはしたまふぞ。」と言ふを聞きて、「彼らは日

ごとに重きを荷ひて、朝はとく出で、夕べには遅く帰る。ことに暑寒の折からはその苦しみ言ふべくもあ

らじ。おのれらは年中店に居て風雨のうれへもなく家業を営むはありがたきことならずや。たとひ人に

ものを与えることはできなくとも、せめてはその価を争はずして求めなば、少しは彼らがたすけともならん

か。」と言ひける。後々は新右衛門が情けあることを知りて、売る者も価を低くして持ち来りしとなん。

春のころ、遊山に出でんと思へど、われひとりにては楽しみうすしとて、桜花の咲きみだれたるをいく

枝となく買ひ入れて、これを家の内こかしこにおびただしくさし飾りて、よき酒さかなをあまた調じさ

せて、妻子をはじめ召しつかひどもにうちまじりつつ楽しみけるとぞ。

(大田 南畝「仮名世説」から。)

(注) 芝三島町は現在の東京都の地名。

(ア) 線部の主語として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 新右衛門
- 2 売る人
- 3 家内の者
- 4 召しつかひ

(イ) 線1「いかなればかく言ふままにはしたまふぞ。」とあるが、「家内の者」がそのように言つた理由を説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 仕入れる量が減れば仕入れ先に支払う金額も少なくなつて当然なのに、「新右衛門」が仕入れる量を減らしたにもかかわらず、支払う金額を減らさないことに疑問を持ったから。
- 2 品物の価格が日を経るごとに高くなつてゐるのに、「新右衛門」が価格の変化に気づかないふりをして、仕入れ先から品物を無理に安く買ひ入れてゐることに疑問を持ったから。
- 3 品物の質を見定めてから支払う金額を決定するものなのに、「新右衛門」が品物の確認もせず、質の悪い品物に対しても質のよい品物と同じ金額を支払うことに疑問を持ったから。
- 4 品物を売つたり買つたりするときには価格の交渉をするものなのに、「新右衛門」が仕入れ先と話し合いもせず、言われたとおりの価格で買ひ入れてしまふことに疑問を持ったから。

(ウ) 線2「暑寒の折からはその苦しみ言ふべくもあらじ。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「売る人」は、春と秋は朝から夜までたくさんさんの仕事があるが、夏と冬は仕事の量が減ってしまうので、暮らしていくのが大変だということ。

2 「売る人」は、朝は早く出て夜は遅く帰ってくるが、暑い時期と寒い時期は働く時間がさらに長くなるので、疲れがたまり大変だということ。

3 「売る人」は、仕事のため外に出てしまうので、家にいることがほとんどなく、特に忙しい夏や冬は家のことができなくなって大変だということ。

4 「売る人」は、いつも重い荷物を背負って朝から夜まで商売をしているので、暑い時期や寒い時期は、品物売り歩くのが特に大変だということ。

(エ) 線3「妻子をはじめ召しつかひどもにうちまじりつつ楽しみけるとぞ。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「新右衛門」が、春になると遊びたくなり、普段は店から出られない家族や店で働く人たちと旅行に出かけ、皆で花見を楽しんだということ。

2 「新右衛門」が、桜が咲く時期になると、家族や店で働く人たちとともに花見用の酒や料理を用意し、客にふるまうのを楽しんだということ。

3 「新右衛門」が、自分だけが出かけて花見をしてもあまり楽しくないと思い、家族や店で働く人たちと一緒に家で花見を楽しんだということ。

4 「新右衛門」が、家族や店で働く人たちが花見に行くのを見てうらやましく思い、家の中に桜の枝を飾って花見気分を楽しんだということ。

(オ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「新右衛門」は、仕事ができるありがたさを裕福になっても忘れず、「売る者」と協力してよりよい菓子を作り上げた。

2 「売る者」は、「新右衛門」が思いやりの気持ちにあふれていることを知って、低い価格で品物を売るようになった。

3 「新右衛門」は、年中店で仕事をしているため、「売る者」がどんなに苦勞しているか想像することができなかった。

4 「売る者」は、商売に慣れていない様子の「新右衛門」に、商売の仕組みや客とのやりとりの方法について教えた。

(問題は、これで終わりです。)

